

トラップ	B-10A 型バケツトラップ	呼び径 15~25	空気用
------	----------------	--------------	-----

取 扱 説 明 書

- この取扱説明書は本製品の取扱担当者に必ずお渡しください。
- この取扱説明書の全部又は一部を無断で複写・転載することを禁じます。
- この取扱説明書の内容は予告なしに変更する場合があります。

目 次

1. 特徴	p. 1
2. 構造	p. 1
3. 取付け要領	p. 2
4. 分解・組立方法	p. 2
5. その他注意事項	p. 3

フシマン株式会社

東京本社 〒140-0011

東京都品川区東大井2-13-8 ケイヒン東大井ビル2F

TEL 03-5767-4200 (営業部代表)

FAX 03-5767-4181

大阪支社 〒577-0801

大阪府東大阪市小阪2-10-14

TEL 06-4308-8805

FAX 06-4308-8807

●はじめに



この度は、フシマン製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。フシマンは長年の販売実績と優れた技術力で、信頼性の高い、品質の良い製品をお客様にご提供します。

この取扱説明書は、本製品を安全かつ正確にご使用いただくための取り扱い方法を説明しています。本製品を使用する前に、必ずこの取扱説明書をご一読ください。また、お読みになった後は、お取り扱いされる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。



●安全上の注意

本製品を安全に使用するためには、正しい設置と運用、さらに適切な保守・点検が不可欠です。この取扱説明書に示されている安全に関する注意事項を読んだうえで、十分に理解してから作業を行ってください。

ここに示した注意事項は、使用に際して人的危害や物的損害を未然に防止するためのものです。この取扱説明書では、誤った取り扱いによって生じる可能性のある危害や損害の程度を「警告」と「注意」に区分しています。いずれも、安全に関する重要な内容ですので必ず守ってください。

表 示	意 味
 警告	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される。
 注意	取り扱いを誤った場合、使用者が軽い又は中程度の傷害を負う危険性が想定される、又は物的損傷・損壊の発生が想定される。

次の安全上の注意事項にご留意ください。

 警告
<ul style="list-style-type: none">● 配管に取付けたまま分解する場合は、最初に配管ラインの圧力を遮断し、必ず配管圧力を抜いてください。また、温度が高い場合は常温に下げて、流体が漏れても危険がない状態にしてから実施してください。
 注意
<ul style="list-style-type: none">● 取付は水水平配管に、弁箱の流れ方向矢印を流体の流れ方向に合わせて、なるべく垂直に取り付けてください。● 配管に接続の際、過剰なねじ込みは避けてください。弁箱が破損する可能性があります。● 配管工事後、トラップの入口の止め弁を閉じてブロー弁を開き、配管内の鉄屑、溶接屑、ごみなどの異物を十分にブローして下さい。その後、トラップのふたを開け、弁箱に呼び水を入れた後、トラップ前の止め弁できるだけゆっくり開きます。止め弁を早く開けるとバケットが上昇する前に呼び水が吹出し、空気漏れの原因となります。● 組立の際、弁座をふたにねじ込むときは、レバー支持金具 の穴に確実に弁座の段部が嵌まっていることを確認して、ねじ込んでください。このとき、液体ガスケットをレバー支持金具両面の当り面に塗ってください

- E形止め輪やばね輪は、ぴったり嵌まっていることを確認してください。
- バケツに掃除棒を通した後、ふたにレバーやバケツを組み付けて弁箱にのせます。このときバケツが外れやすいので注意が必要です。弁箱入口側のふたの端を少し持ち上げると、バケツの釣り金具がレバーに確実に引掛かっているか否かが容易に確認できます。(図3)
- 呼び水が入っているか確認して下さい。
- バケツトラップは凍結すると弁箱が破損するおそれがありますから、凍結しない場所で御使用ください。
- テスト棒は、ばねの力と弁箱内の流体の圧力により自動的に戻ります。
- テスト棒を頻繁に、または長く押し続けますと、弁箱内の水が無くなり空気漏れが極端に多くなります。テスト棒は1秒間以内で2～3回押しただけにして下さい。もし弁箱内の水が無くなったら、呼び水を入れて下さい
- 下向きバケツトラップは、バケツの空気抜き小穴から若干の空気が必ず外部に逃げます。

●開梱および製品の確認・保管

開 梱 時 の 確 認	<input type="checkbox"/> 製品以外の異物が入っていないか。 <input type="checkbox"/> 製品に破損や損傷は見られないか。 <input type="checkbox"/> 附属品がある場合はきちんと揃っているか。
仕 様 の 確 認	<input type="checkbox"/> 型式・口径・使用圧力等が仕様と合致しているか。
保 管 上 の 注 意	<input type="checkbox"/> 弁箱出入口の防塵キャップは配管に取り付けるまで外さない。 <input type="checkbox"/> 配管に取り付ける場合は必ず防塵キャップを取り外す。 <input type="checkbox"/> 製品は屋内で保管する。 <input type="checkbox"/> 製品は納品時の状態で保管する。

ご不審な点やお気づきの点がありましたら、製品の銘板に記載された型式名及び製造番号をご確認のうえ、当社までお問い合わせください。

1. 特徴

- 1.1 空気用トラップの場合、ドレン中に油分が含まれていると、この油がトラップ内部に固着し、作動不良の原因になります。B-10A型バケットトラップは、排出口が上部にあるためドレン中に浮いた状態で入ってくる油分から排出しますので、油分の固着による故障のおそれが少ない構造です。
- 1.2 更に、本弁はトラップの作動毎にバケットの空気抜き小穴を自動的に掃除する掃除棒を内蔵し、この小穴の目詰まりによる作動不良を防止しますから、長期間に渡り安定した間歇作動を行います。
- 1.3 また、ドレンの溜り状態を点検できるテスト棒を備えており、このテスト棒を押して強制的に開弁することにより、ドレンの溜り具合を確認できるとともに、バケットの空気抜き小穴の掃除もできます。
- 1.4 弁体・弁座やバケットなどの主要部分はステンレス鋼製ですから、丈夫で、長寿命です。

2. 構造

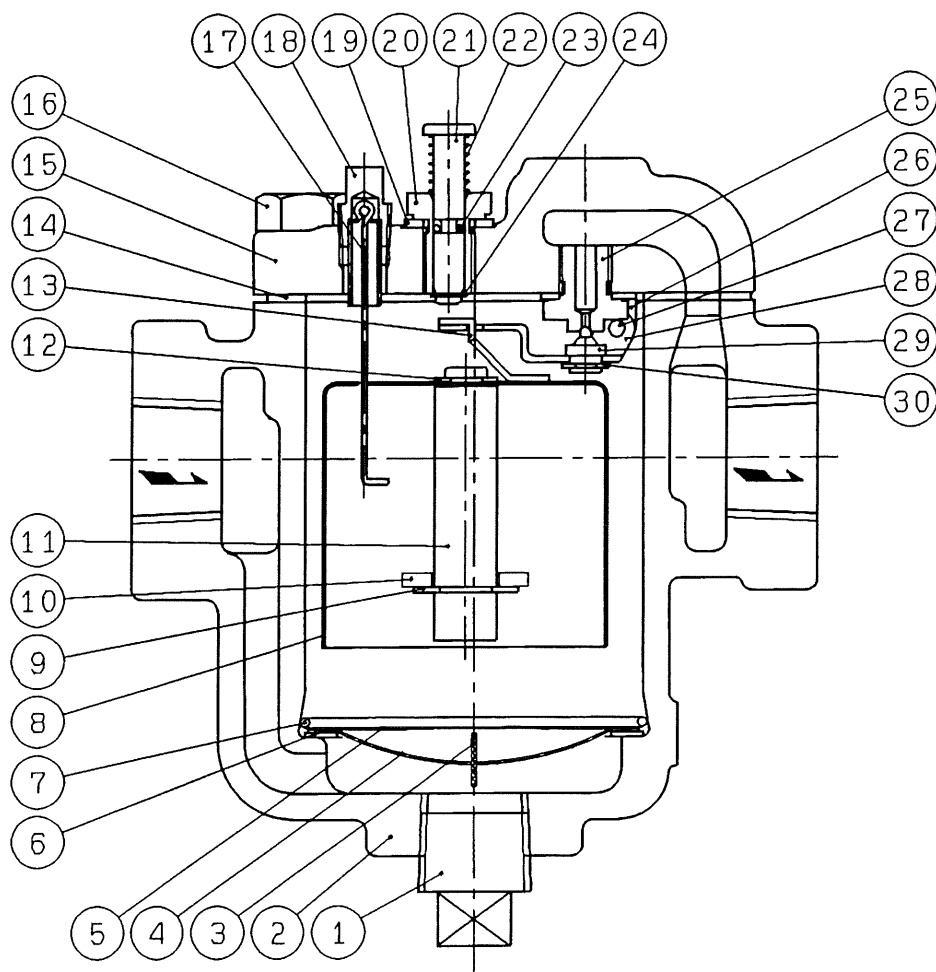


図 1

NO.	部品名
1	プラグ
2	弁箱
3	スプリングピン
4	ストレーナ
5	隔壁
6	ガスケット
7	ばね輪
8	バケット
9	E形止め輪
10	平座金
11	おもり
12	E形止め輪
13	バケット釣金具
14	ガスケット
15	ふた
16	六角ボルト
17	掃除棒
18	プラグ
19	ガスケット
20	テスト棒案内
21	テスト棒
22	ばね
23	リング
24	E形止め輪
25	弁座
26	レバー支持金具
27	軸
28	レバー
29	弁体
30	E形止め輪

3. 取付け要領

⚠ 注意

- 3.1 水平配管に、弁箱の流れ方向矢印を流体の流れ方向に合わせて、なるべく垂直に取り付けてください。(図2)
- 3.2 配管に接続の際は、過剰なねじ込みは避けてください。
弁箱が破損する可能性があります。
- 3.2 配管工事後、トラップの入口の止め弁を閉じてブロー弁を開き、配管内の鉄屑、溶接屑、ごみなどの異物を十分にブローして下さい。その後、トラップのふたを開け、弁箱に呼び水を入れた後、トラップ前の止め弁できるだけゆっくり開きます。止め弁を早く開けるとバケットが上昇する前に呼び水が吹出し、空気漏れの原因となります。

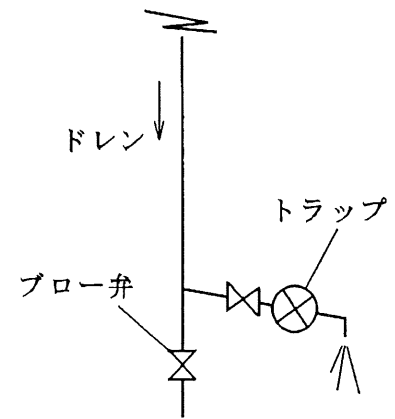


図2

4. 分解・組立方法

バケットトラップが作動不良になることは希ですが、多量のごみや油分が入って来るとストレーナが詰まってドレンを排出しなくなることがあります。また、長い年月の間には油分がバケットやレバー回りに固着して、作動不良を起こすことも考えられます。このような場合にはトラップを分解して掃除をしてください。

4.1 分解方法

⚠ 警告

配管に取付けたまま分解する場合は、配管ラインの圧力を遮断し、必ず配管内の圧力を抜いてください。また、温度が高い場合は常温に下げて、流体が漏れても危険がない状態にしてから実施してください。

- (1) 六角ボルト(16)を外してふた(15)を引き上げます。レバー(28)やバケット(8)と一緒に上がってきます。
- (2) プライヤで、ばね輪(7)の直線部を掴み、抜き取ります。
- (3) ラジオペンチでスプリングピン(3)の先端を掴んで引き上げると、隔壁(5)と共にストレーナ(4)を取り出せます。
- (4) ストレーナを掃除します。また、弁箱の底に溜っているごみを取り除き、弁箱内部を清掃します。
- (5) 軸(27)を抜いて弁体(29)と弁座(25)の当り面を掃除します。もし弁体の当り面が摩耗していれば、弁体を交換します。E形止め輪(30)をドライバの先端でこじって外せば弁体は外せます。
- (6) 弁座は(25)、必要なら14平のスパナで外して新品と交換できます。
- (7) バケット内外面を清掃します。必要ならE形止め輪(12)をドライバの先端でこじって外せば、おもり(11)も外せます。[(10)の平座金はバケットの重量調整用のものであり、ない場合もあります。]なお、特にバケット天井の空気抜き小穴を掃除して下さい。
- (8) 掃除棒(17)も清掃して下さい。
- (9) テスト棒(21)の動きが悪ければE形止め輪(24)を外してテスト棒を抜き取り、テスト棒を清掃します。Oリング(23)から漏れるようならOリングを交換します。

4.2 組立方法

⚠ 注意

(1) 取り外したときと逆の順序で組み付けます。弁座をふたにねじ込むときは、レバー支持金具(26)の穴に確実に弁座の段部が嵌まっていることを確認して、ねじ込んでください。
このとき、液体ガスケットをレバー支持金具両面の当り面に塗ってください。

(2) Oリングにはグリースを塗って下さい。

⚠ 注意

(3) E形止め輪やばね輪は、ぴったり嵌まっていることを確認してください。

(4) ふたのガスケット(14)が破損していれば新品と交換してください。

⚠ 注意

(5) バケツに掃除棒を通した後、ふたにレバーやバケツを組み付けて弁箱にのせます。このときバケツが外れやすいので注意が必要です。弁箱入口側のふたの端を少し持ち上げると、バケツの釣り金具(13)がレバーに確実に引掛かっているか否かが容易に確認できます。(図3)

(6) 呼び水が入っているか確認して下さい。

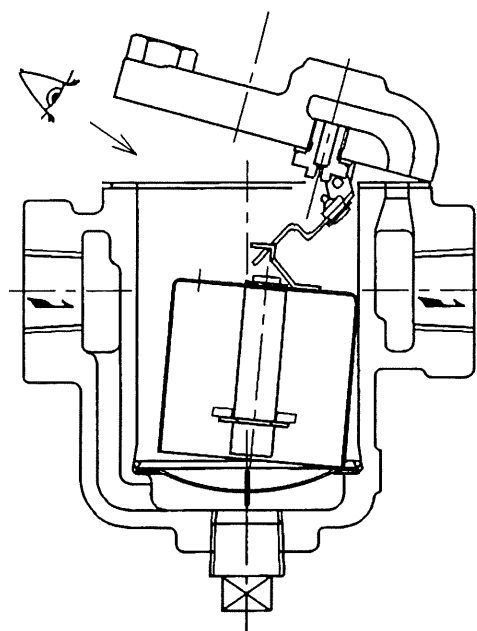


図 3

5. その他注意事項

⚠ 注意

- 5.1 バケツトラップは凍結すると弁箱が破損するおそれがありますから、凍結しない場所で御使用ください。
- 5.2 テスト棒は、ばねの力と弁箱内の流体の圧力により自動的に戻ります。
- 5.3 テスト棒を頻繁に、または長く押し続けると、弁箱内の水が無くなり空気漏れが極端に多くなります。テスト棒は1秒間以内で2～3回押しだけにして下さい。もし弁箱内の水が無くなったら、呼び水を入れて下さい。
- 5.4 本弁のような下向きバケツトラップは、バケツの空気抜き小穴から若干の空気が必ず外部に逃げます。

2020.5.27			B-10A型バケツトラップ 取扱説明書	
ね	ね	RM	空気用	
フシマン株式会社			H-4E1363e	